

自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施

研究分担者：岩橋恒太（特定非営利活動法人 akta 理事長）

研究協力者：金子典代、高久道子（名古屋市立大学看護学部）

高野操、岡慎一、林田庸総（国立国際医療研究センター・エイズ治療・研究開発センター）

本間隆之（山梨県立大学看護学部）

健山正男（琉球大学医学部第一内科）

荒木順子、木南拓也（特定非営利活動法人 akta）

生島嗣、佐藤郁夫、福原寿弥（特定非営利活動法人ぷれいす東京）

中山保世、小日向弘雄（東新宿こころのクリニック）

今村顕史（がん・感染症センター 都立駒込病院）

市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科）

研究要旨

我が国の HIV 新規感染報告者数の 7 割は男性同性間の性的接触による感染であり、ゲイ・バイセクシュアル男性は HIV 感染の早期発見のための検査受検勧奨の重要なターゲット層となっている。UNAIDS（国連エイズ合同計画）は以下の 3 つを達成できれば、2030 年にはエイズは公衆衛生上の脅威ではなくなることを示し、90-90-90 戦略として打ち出している。その 3 つとはすなわち、①HIV 感染者のうち 90%が診断されていること、②診断された感染者のうち 90%が治療を受けていること、③治療を受けているもののうちウイルス量が抑制されている患者数が 90%であること、である。日本では、②、③はほぼ到達できていることが先行研究等により示されているが、我が国の男性と性行為を行う男性（Men who have sex with men:MSM）では感染者の 90%が感染ステータスを把握する状況には未到達である。今後のわが国での新規 HIV 感染者とエイズ報告者減のためには、従来の公的機関や医療機関にて提供される検査以外の手法も検討し、MSM の検査機会を拡大させる必要がある。

本研究では、医療機関と MSM をサポートする NGO が連携し、検査キットを活用したハイリスク MSM 層の検査受検推進とこのコミュニティベースの DBS 法を用いた HIV 検査の事業化に向けた検討を図る。また本検査手法を用いて、受検者の HIV 感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施する。

なお、本研究の前身となる取り組みが平成 26 年度から平成 28 年度にかけて国際医療研究開発費疾病研究分野「UNAIDS が掲げる臨床評価指標 90-90-90 達成のための男性同性愛者に対する新しい HIV 検査システムの構築に関する研究（研究代表者：岡慎一）」として実施された。平成 28 年 12 月までに 1702 件の検査キットを配布し、1403 件（陽性 34 件）の回収実績を得ている。

本研究は、この先行研究をもとに更に検査キットの配布場所と配布対象者を拡大する。新宿地域での配布に加え、他地域のコミュニティセンターでの配布、さらにハッテン場（性行為を目的とした MSM の出会いの場）等での出張配布、英語であれば説明文章の理解とコミュニケーションをとることが可能な外国籍 MSM を対象者に加え、拡大する。

また、研究参加者の検査結果と自記式質問紙調査データを研究 ID により連結させた血清行動疫学調査を実施する。

A. 研究目的

医療機関と MSM をサポートする NGO が連携し、検査キットを活用した HIV 検査を MSM に提供し、MSM の有病割合を明らかにする。また受検者の HIV 感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施し、本検査が MSM の検査促進に寄与したかどうかを評価するとともに、陽性者の検査行動、リスク行動の特性を明らかにする。

B. 研究方法

指先の血液を絞り出し、ろ紙に垂らす。乾燥させたろ紙血を国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター (ACC) へ郵便で送付する。ACC ラボで HIV 一次スクリーニング検査を実施する。一次スクリーニング検査で陽性または判定保留となった検体は、国立国際医療研究センター中央検査部にて二次スクリーニング検査を実施し、両者の結果をもとに総合判定を行う。

研究参加者は研究ホームページの検査結果照会画面にアクセスし、検査キットに付された研究 ID およびパスワードを用いてログイン後、自身の検査結果を確認する。スクリーニング検査で判定保留または陽性となった研究参加者に対しては、「確認検査が必要です」と結果を表示し、本研究の協力医療機関へ受診するよう促す（結果画面から協力医療機関の受診予約が可能）。

研究参加の同意取得は無記名で行い、結果参照まで無料・匿名で実施する。確認検査のために医療機関を受診した時点から一般診療（非匿名、有料）として扱う。

研究の主要評価項目

(1) 検査キットを利用した MSM の HIV 感染症有病割合

研究の副次的評価項目

(1) 検査キット配布地域、配布場所別の HIV 感染症有病割合

(2) 検査キット利用者のうち、過去 1 年以上 HIV 検査を受けていない MSM の割合

(3) 検査キット利用者のうち、HIV 検査を受けたことがない MSM の割合

(4) 検査キット配布地域、配布場所別受検者の検査行動、リスク行動

(5) HIV 感染が判明した MSM の検査行動、リスク行動の特性

対象

以下の条件を全て満たすものを本研究の対象者とする。

(1) 男性と性行為経験のある 20 歳以上の男性

(2) 日本語または英語を理解できる者

(3) 研究説明同意文書を読み、研究参加の意思を示した者

研究期間

倫理委員会承認後 (2018 年 2 月) ~ 2020 年 3 月

都内の保健所および公的 HIV 検査所で実施されている HIV 検査件数は年間約 20,000 件であり、そのうち MSM の受検者の割合は「エイズ予防のための戦略研究」の結果から 6.6% ~ 12.4% と考えられる。仮に MSM 受検者の割合を 10% と推定した場合、都内の保健所等で HIV 検査を受ける MSM は年間約 2,000 件である。

本研究では、保健所および公的 HIV 検査所における年間 MSM 受検者数の約半数に相当する MSM に対して、本研究の検査を提供することを目標として実施する。

ベースライン調査による首都圏居住の MSM の検査経験等動向の把握

本研究が首都圏居住の MSM への検査行動に影響を与えうるか、また検査ニーズや現状を明らかにするために、MSM が集まる大型クラブイベントでベースライン調査を実施する。

研究ホームページ「HIVcheck.jp」の構築

本研究は不特定多数の MSM を対象とするため、本研究に係るホームページを開設し、研究内容の周知を図る。本研究の概要、検査の流れ、検査キット受け取り方法、結果の受け取り方、検査に関する Q&A、その他支援情報等を掲載する。ホームページはスマートフォン、パソコン対応とする。サイトには下記情報を含むものとする。

- ①研究の概要（対象、研究期間、研究組織、問い合わせ先）
- ②本研究での検査キットを活用した検査の流れ
- ③検体採取の方法（動画を含む）
- ④HIV 検査に関する Q&A(ウィンドウピリオド、結果の解釈など)
- ⑤HIV 感染症に関する Q&A（早期検査の意義、陽性判明後の治療や生活など）
- ⑥支援情報（利用可能な電話相談、HIV 検査情報、HIV の基礎情報や陽性後判明後の治療や生活について情報提供している Web サイトの紹介）
- ⑦具体的な研究参加の手順と検査キット受け取りの流れ

参加基準に合致するかの確認
研究参加への同意
質問紙調査への協力をお願い
質問紙調査の結果と血液検査の結果を連結することについての同意
検査キットの配布
相談員による対面相談の提供
本研究に関する問い合わせ先

⑧スクリーニング検査結果照会画面

各検査キットに封入された検査カードには、検査キット固有の研究 ID と検査結果閲覧に必要なパスワードが記載されている。検査結果照会画面にこの研究 ID とパスワードを入力し、検査結果を参照できる。検査結果の表示には以下の内容が含まれる。

結果の解釈に関する情報
結果に関する問い合わせ先
相談窓口

⑨確認検査受診申し込み

スクリーニング検査の結果が陽性判定または判定保留となった場合は、確認検査が必要なため、結果画面に引き続き、確認検査を受けることが出来る医療機関を明示する。受検者は同 Web サイトより、受診を希望する医療機関(国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター(ACC)、東新宿こころのクリニック、都立駒込病院)と日時を選択する。予約確定後、当該医療機関宛の情報提供書が発行される。

ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした広報

MSM を対象に HIV の予防啓発を行っている NGO と連携し、検査キット配布地域のゲイコミュニティに対して、本研究で実施する HIV 検査の内容や研究ホームページ、検査キットの配布場所を広報する。具体的には、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした出会い系ソーシャルネットワーキングサイトにおいてバナー広告を設置し、研究ホームページにリンクする。また、ゲイバーやクラブイベントにおけるチラシの配布、ゲイショップにおける折り込みチラシ、ハッテン場におけるチラシの設置など、本研究の広報を段階的に拡大する。

検査キットの配布と自記式質問紙調査の実施

研究参加希望者は、新宿に設置されたコミュニティセンター（厚生労働省の事業費で設置されている MSM の HIV 予防啓発拠点）または、ゲイ向け商業施設内に設置する出張ブースに来場する。訓練を受けたコミュニティセンターのスタッフが研究参加者の適格基準を確認する。本検査は研究として実施している検査である事、血液の採取方法、結果の受け取り方、陽性となった場合の医療機関への受診の流れ、問い合わせ先等、説明文書に沿って説明し、研究参加について同意を得る。同意を得た研究参加者に対して HIV 検査

キットを配布する。また同時に、自記式質問紙調査への回答協力を依頼する。自記式質問紙調査は無記名で行うが、検査結果との連結に同意した参加者の質問紙には、検査キットに付された研究 ID ラベルを貼付する。

血液の採取と検査申込み

研究参加者は検査キットを自宅などに持ち帰り、検査キットに同封された検体採取の説明書を参考に、ランセットを用いて自身の指先を穿刺し、ろ紙に血液をしみこませる。検体（血液をしみこませたろ紙）、使用済ランセットを返送用封筒に入れて、国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター（ACC）ラボに送付する。なお、ランセットは、1 回のみ使用できる器具で試し打ちは出来ないようになっている。針は、穿刺後自動的に格納される。受検者は検査キットに同封された検査キット固有の研究 ID と仮パスワード（研究参加者自身が何度でも変更が可能である）が記載されたカードを保管する。

検査キットを持ち帰ったものの、研究参加を取りやめ、検査キットが不要になった場合は、各自が居住する自治体のルールに従って廃棄する。廃棄の方法が不明である場合は、国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター（ACC）ラボに送付しても構わない。

検査の受付と HIV スクリーニング検査の実施

ACC ラボにて検体を受領後、検査担当者は、検査受付（ID 登録）を行い、スクリーニング検査を実施する。スクリーニング検査で陽性となった検体は、国立国際医療研究センター中央検査部にて二次検査を実施し、HIV 感染の有無を判定する。結果を検査システムに入力する。

検査結果の通知

研究参加者は、研究ホームページの検査結果照会画面より、検査カードに記載された

キット固有の研究 ID、パスワードを入力してログインし、検査結果を閲覧する。検体がラボに到着していない場合は「未到着」、結果が出ていない場合は、検査中と表示する。スクリーニング検査陰性の場合は「陰性」、判定保留または陽性の場合は「確認検査が必要です」と表示する。検体量が不足するなど検査が出来なかった場合は、「判定不能」と表示する。検査結果照会画面には陰性または要確認検査の意味、結果の解釈を表示する。また、HIV 検査に関する疑問や不安が生じた際の相談窓口を明示する。

確認検査の実施（研究結果の取り扱いと医療の提供）

HIV スクリーニング検査陽性または判定保留となった研究参加者に対しては、「確認検査が必要です」という結果表示に引き続き、確認検査を受けることが出来る医療機関を明示する。受診希望の医療機関を選択後、受診希望日、時間を選択する。また、同サイトから当該医療機関宛の情報提供書を発行する。確認検査が必要となった者は、選択した日時に予約医療機関を受診する。他の医療機関または保健所での確認検査を希望する者に対しても、関係機関宛の情報提供書を発行し、受診の際には、情報提供書を持参するよう促す。

スクリーニング検査陽性または判定保留者に対する診療は一般診療であり、通常の医療機関受診と同じく、有料、実名診療となる。確認検査にて陽性が確定した場合には、各医療機関で告知を行い、必要に応じて専門医療機関を紹介する。感染症法に基づく発生届けの作成と提出は、確認検査実施施設にて行う。

支援情報の提供

研究ホームページには、検査・相談・医療に関する情報サイトをリンクし、支援環境の周知に留意する。本研究の実施に関する相談窓口、検査や検査結果受領後の不安に関する相談窓口を明記する。

本研究で用いる検査

HIV スクリーニング検査キットの内容
検査説明書、検査カード(ID/パスワード控え、
支援情報等) 返信用封筒、穿刺血採取キット
(ランセット、消毒綿、絆創膏、ろ紙)

HIV 検査の流れと判定基準

HIV 検査手順は、米国 CDC が推奨する HIV
検査手順 (2014年6月27日改訂)4)に準じ、
第四世代の HIV-1/2 スクリーニングを行い、
その後、別の検査試薬を用いて HIV 感染の有
無を判定する。

①ろ紙にしみこんだ乾燥血液をパンチで打ち
抜き、リン酸バッファー液(PBS) 600 μ L にて
溶出。

②この溶出液 200 μ L を検体として富士レビ
オ社のルミパルスOR HIV Ag/Ab キット(第
4 世代キット) を用いて HIV-1 および HIV-2
のスクリーニング検査を行う。

③陰性の場合には、この段階で陰性の判定(A)。

④陽性の場合には、国立国際医療研究セン
ター中央検査部にてシスメック社のヒスクル
HIVAg/Ab(第4 世代検査キット)を用いて二次
検査を行い、最終判定する。判定保留例と陽
性例は、研究ホームページ上で「確認検査が
必要です」と表示する (B)。

⑤検体量が不十分、もしくは何らかの理由で
検査が出来なかった場合には、もう一度自己
穿刺血の再送を促す (C)。

HIV スクリーニング検査の結果表示に対する 説明

(A) 陰性: 今回の検査では HIV 感染は認めら
れませんでした。HIV 陰性と判定いたします。
なお、今後も年2回の検査をお勧めいたしま
す。

(B) 確認検査が必要: より精密な検査(確
認検査)が必要です。下記提携医療機関では、
精密検査(確認検査)を実施しています。い

ずれかの医療機関を選択し、確認検査予約画
面に進んで下さい。医療機関を受診する際
には、予約確定後に表示される情報提供書を
印刷して持参して下さい。当日は保険証をご
持参ください。

他の医療機関または保健所での検査をご
希望の場合も、情報提供書を印刷して持参
することをお勧めします。

(C) 判定不能: 今回送っていただいた血液
では、量が不十分、もしくは何らかの理由
で検査ができませんでした。再度検査キ
ットを受け取り、検査していただきますよ
うお願いいたします。

倫理面への配慮

本研究については、名古屋市立大学看護学
部研究倫理委員会により実施の承認を得て
いる(2017年12月12日承認、ID番号17017-3)。
あわせて、国立研究開発法人国立国際医療
研究センター倫理委員会により実施の承認
を得ている(2018年2月9日承認、承認番
号 NCGM-G-002463-00)。

また本研究計画は対象者リクルート前に
UMIN に登録し、公開を行っている (UMIN 試
験 ID : UMIN000031460、受付番号 : R000035885、
試験名 : MSM に対する有効な HIV 検査提供と
ハイリスク層への介入方法の開発に関する研
究「自己検査キットによる検査機会の拡大と
血清行動疫学調査の実施」)。

1) 検査キットを受け取りに来場した者(研究
参加希望者)に対して、十分な訓練を受けた
コミュニティセンターのスタッフが、説明同
意文書の内容に沿って本研究の説明を行う。
検査結果と自記式質問紙の回答内容との連
結については、任意とし、拒否する場合も
本研究の参加を妨げない。研究参加希望
者は、自由意思に基づき研究参加の意思を
決定する。説明同意文書末尾に設けられ
た同意欄にチェックが入った場合、研究
参加の同意が得られたものとする。本
研究は匿名で実施する

ことから、署名は不要とする。説明同意文書の原本は名古屋市立大学が保管し、控えを研究参加者に手渡す。

日本語は読めないが、英語で理解が可能な外国籍のMSMに対しては、英語の説明同意文書を用いて説明し、研究参加の意思を確認する。検査キット配布会場に英語が話せるスタッフが配置する。検査キットの使い方説明書は日本語と英語で準備し、結果参照画面は日本語と英語の併記でホームページを作成する。

2) プライバシーの保護と研究参加者の識別

研究参加の同意から検査キットの配布、検査結果の通知まですべて匿名で実施する。そのため、対応表は存在しない。検査結果は検査キットに付された研究IDで管理され、受検者は研究IDとパスワードで結果の閲覧を行う。研究参加者に対する自記式質問紙調査では、性的指向や年齢、居住地域を収集するが、名前や住所、連絡先など個人を特定できる情報は収集しない。研究で収集したデータはすべて研究IDで管理する。

研究で収集したデータを取扱うのは本研究に参加する研究者のみとし、本研究以外の目的には使用しない。研究者は、データの取扱いに十分注意し、研究代表者は適切な取扱いがなされるよう必要な対応を行う。

本研究のホームページにアクセスした人のIPアドレスは研究終了後適切に削除する。

3) 収集データおよび試料の保管と廃棄

本研究の参加同意書および自記式質問紙の原本、本研究で収集したデータは、研究終了の報告後少なくとも5年間は名古屋市立大学看護学部で保管する。廃棄する場合は、印刷資料、電子媒体データなど、いずれの資料も物理的に内容の読み取りが不可能な状態にした後で廃棄する。書き換え不可能な電子媒体のデータは、読み取り不可能な状態まで物理的に破壊した上で適切に廃棄する。書き換え

可能な電子媒体のデータは、読み取り不可能な状態まで物理的に電子媒体を破壊して廃棄するか、ダミーデータを複数回上書きして、元のデータを復元不可能な状態にする。

研究参加者から受領したろ紙の残血液は、研究終了の報告後少なくとも5年間は国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターラボにて保管する。保管期限を過ぎたろ紙を廃棄する場合は、通常の血液検体と同様の方法で廃棄する。溶出液は検査後感染性廃棄物として廃棄する。検体を本研究以外の目的に使用することはない。

4) 研究参加者からの相談等への対応

本研究に係る問い合わせ先および研究代表者の情報を研究ホームページ、説明同意文書、検査キットに明記し、研究参加者などからの相談に対応する。

C. 研究結果

1. ベースライン調査による首都圏居住のMSMの検査経験等動向の把握（資料1）

2017年12月16日に東京都江東区新木場地区で4,000名以上を集客したクラブイベントの参加者を調査対象者とした。調査方法は、無記名の自記式質問紙調査とした。

手順はイベント会場において調査員が口頭で調査の趣旨と概要をイベント参加者に説明し、協力を依頼した。同意の得られた参加者にはその場で質問紙(A4版2ページ)を配布し、回答を依頼した。回答を記入した質問紙は当日、その会場内で調査員が回収した。回答者には謝礼として当日会場内で使用可能なドリンクチケットを配布した。なお回収時には回答者のプライバシーに配慮し、無回答や誤回答など回答内容の点検は行っていない。アンケートの回収総数は1,000件であった。

質問紙は、本研究班で独自に作成した無記名の自記式質問紙を使用した。調査項目はPrEP、Treatment as PreventionやHIV/STI予防の知識、HIV予防の意識、予防行動、HIV

検査受検行動、予防啓発プログラムの認知、性行動、人口統計学的項目等、全 45 問で構成した。

分析対象者は、①自認する性別を男性と回答しかつ、②生涯に男性とのセックス経験ありと回答した者であり、③すでに HIV 陽性がわかっている回答者を除く、とした。

分析対象となった回答者数は、885 件であった。回答者の平均年齢は 33.1 歳(標準偏差 7.6 歳、範囲 20 歳～62 歳)であった。以下は年齢階級別にみていく(20 歳代が 312 件、30 歳代が 381 件、40 歳以上が 192 件)。

① HIV に関する新たな知識

「HIV 検査は日本全国の保健所で無料匿名で受けられる」について「正しい」と回答したのは全体で 87.8%であった。また、「HIV に感染していない人が、抗 HIV 薬を内服して、HIV の感染リスクを減らす PrEP という方法がある」について「正しい」と回答したのは 58.9%で、20 歳代が 56.1%、30 歳代が 58.5%、40 歳以上が 64.1%だった。さらに、「HIV に感染していても、抗 HIV 薬によって血液中のウイルスが検出できないレベルになっている人は、セックスパートナーに HIV を感染させることはほぼない」について「正しい」と回答したのは全体で 47.5%、20 歳代が 47.1%、30 歳代が 46.2%、40 歳以上が 50.5%だった。

② カミングアウトと人間関係

「自分のセクシュアリティについてカミングアウトした人の人数」について、全体で「いない」が 29.5%、「1 人」が 11.6%、「2～5 人」が 28.7%、「6 人以上」が 29.5%だった。

一方、「自分のセックスやセクシュアリティに関する困りごとを相談できる人の人数」は、「いない」が 16.2%、「1 人」が 13.8%、「2～5 人」が 49.8%、「6 人以上」が 20.0%だった。

③ 性行動

「過去 6 ヶ月間の男性とのアナルセックス」については、全体で 88.8%があると回答した。過去 6 ヶ月のアナルセックスをした人数は「1 人」が 18.8%、「2～4 人」が 18.1%、「5～9 人」

が 11.5%、「10～19 人」が 14.7%、「20 人以上」が 10.6%だった。「一番最近の男性とのアナルセックスでのコンドーム使用」については「使わなかった」が全体で 22.6%だった。

また、「過去 6 ヶ月間にゲイ向け出会いアプリで出会った男性との性交」について、あると回答したのが全体で 57.9%、20 歳代が 61.9%、30 歳代が 56.4%、40 歳以上が 54.2%だった。「過去 6 ヶ月間に有料ハッテン場で出会った男性との性交」についてあると回答したのが全体で 39.1%、20 歳代が 34.9%、30 歳代が 38.3%、40 歳以上が 47.4%だった。

「過去 6 ヶ月間の金銭を介した男性とのセックス」については、「お金を払ってセックスした」が 4.5%、「お金をもらってセックスした」が 4.7%、「払う・もらう、両方ともあった」が 8.2%だった。

なお、「過去 6 ヶ月間に PrEP という方法をとった」について、「ある」と回答したのが 64 件、7.2%だった。

④ HIV 検査行動

生涯受検経験について、全体で 84.2%、20 歳代が 81.4%、30 歳代が 84.5%、40 歳以上が 88.0%が受検経験があると回答した。一番最近検査を受けた場としては、「保健所」が 58.6%、「病院・診療所」が 19.7%、「南新宿・相談室」が 11.6%、郵送検査が 2.2%だった。ただし、一番最近受けた HIV 検査について、「検査結果を聞かなかった」と回答したのが全体で、3.1%あった。

「HIV 検査を定期的に受けているか」という問いには、「6 ヶ月またはそれより短いペースで受けている」が全体で 24.1%、20 歳代が 28.8%、30 歳代が 21.3%、40 歳以上が 21.9%と回答していた。その他全体では「おおよそ 1 年に 1 度のペースで受けている」が 21.8%、「特にペースは決めていない」が 36.2%だった。

「自分の都合がつかず、保健所の HIV 検査実施時間に検査を受けられなかったことが過去 1 年間にあるか」は、「ある」が全体で 34.4%、

20 歳代が 39.1%、30 歳代が 32.3%、40 歳以上が 30.7%だった。

一方、「保健所の HIV 検査で、保健所側の都合で予約を取れなかったり検査を受けられなかったことが過去 1 年間にあるか」は、全体で「ある」が 24.5%、20 歳代が 28.8%、30 歳代が 23.4%、40 歳以上が 19.8%だった。

⑤ HIVcheck の認知と活用経験

コミュニティセンターakta の認知は、全体で「akta に行ったことがある」が 30.4%、「akta を知っているが、行ったことはない」が 29.6%と認知が 6 割を超えていた。

HIVcheck の認知については、全体で「利用したことがある」が 18.2%で、20 歳代が 24.0%、30 歳代が 15.5%、40 歳以上が 14.1%だった。また全体で「知っているが、利用したことがない」が 23.2%だったため、2016 年 12 月まで前研究班で実施した HIVcheck の認知は 4 割を超えていた。

また「HIVcheck を定期的にご利用したいと思うか」については、「利用したい」が 72.0%だった。

2. 乾燥ろ紙血を用いた HIV スクリーニング検査についての検討（資料 2）

乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 検査は利用者の利便性を高めることが期待されるが、我が国では承認されていない。本研究を実施するに当たり、乾燥ろ紙血を用いた HIV 検査が行われる。実施に先立ち、乾燥ろ紙血を用いた HIV 検査の方法を確立し、検査の質を明らかにすることで、今後の安定的な検査の遂行に資することを本検討の目的とした。

血液サンプルは HIV 陽性者 50 例、HIV 陰性者 50 例から提供された。採血用ろ紙に血液を滴下し、乾燥した部分をパンチで打ち抜き PBS 600uL を加え攪拌し、4°Cで一晩溶出した。翌日溶出液を遠心し、上清をルミパルス S で測定し、陽性であればヒスクル 5000 で測定した。

ろ紙血溶出液のルミパルス測定値は血漿の

215.7 倍希釈の測定値に相当した。通常ルミパルス及びヒスクルの陽性判定基準は測定値 1 以上であるが、ろ紙血の場合は前述の希釈が起こるために、本法では陽性判定基準を測定値 0.5 以上とした。その結果 HIV 陽性者 50 例中 49 例がろ紙血で陽性と判定され、また HIV 陰性者 50 例中 50 例がろ紙血で陰性と判定された。本法の感度は 0.98、特異度は 1 であった。測定値が低かった例は、長年に渡り抗 HIV 治療を受けている例や急性 HIV 感染症例であった。

3. 研究ホームページ「HIVcheck.jp」の構築とゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした広報

① ホームページ「HIVcheck.jp」の構築

前研究班で構築した HIVcheck.jp を参照しつつ、今年度は下記内容の修正および追加作業を行った。

- ・検査結果告知システムの再構築・検討
- ・ウェブ上で予約可能な確認検査拠点として、都立駒込病院の情報の追加
- ・英語話者を対象とした、検査結果ページの英語併記表示
- ・ふれいす東京が相談実施する「ポジティブライン」等の情報への、結果ページからの情報アクセス改善
- ・「よくある質問集」ページの「あんしん HIVcheck について」および「HIV 感染症について」の内容の記述内容の改訂・更新

② ウェブサイト「HIVcheck.jp」の広報

2018 年 2 月 26 日の HIVcheck の開始に際して、下記内容の広報を行った。なお、2017 年度は来年度の本格実施のパイロット的な位置づけとし、大規模な広報は控えている。

- ・HIVcheck の開始・実施日程を伝えるポスターを作成し、新宿二丁目を中心とするゲイバー等、ゲイ向け商業施設にアウトリーチを実施
- ・ゲイ向け出会い系アプリ等への HIVcheck

の広告の出稿

・2018年3月発行のゲイ雑誌において、旧HIVcheckの結果報告と再度開始・実施日程を伝える広告の作成と掲載

上記広報の結果、ウェブサイト「HIVcheck.jp」へのアクセス数は、2018年2月1日から3月31日までに4,656セッションだった(google analytics使用)。

4. 検査キットの配布と自記式質問紙調査の実施

①配布日程、開始時期の設定

2018年2月26日より、毎週月曜日19時から22時まで、コミュニティセンターaktaの場所を活用してHIVcheckの検査キット配布を実施した。また本研究では、コミュニティセンターaktaの開館時間内であれば、月曜日以外にもスタッフが対応して検査キットを配布することとした。

②配布に関するマニュアルの作成と研修の実施

HIVcheckのキットを配布するスタッフを対象とした配布マニュアルを作成し、それに基づいてスタッフ研修を実施した。2018年2月26日の開始以降も、19時の開始前に配布スタッフのロールプレイ・トレーニングを毎回実施した。

③検査キットの配布と自記式質問紙調査の実施・回収

2018年2月26日に開始したHIVcheckの配布は、3月26日までに毎週月曜日に実施し、合計5回実施した。配布スタッフは5,6名で担当し、専門相談員も同会場に設置した。合計97件の検査キットを配布し、そのうち12名が専門相談員の相談につながっている。

D. 考察

我が国のMSMにおいては、エイズ施策の指標であるケア・カスケードの第一段階である陽性者の90%が感染ステータスを把握する状況には到達しておらず、更なる検査の促進

が必要である。

本研究では、保健所等公的機関によるHIV検査以外の検査手法、すなわちコミュニティベースのDBS法を用いたHIV検査を提供する。コミュニティセンターを基点とした検査キットの配布が、MSMの受検促進に有効な手法になり得るかを明らかにすることができる。

また、検査キットを配布した地域・ベニューにより、MSMの有病割合が異なるのかどうかを評価することが出来る。さらに検査キット配布時に行う自記式質問紙調査の回答内容と、感染ステータスをリンクさせた疫学調査を実施することにより、配布地域、ベニューによるMSMの検査行動やリスク行動に違いがあるのか、また、HIV陽性MSMの検査行動、リスク行動の特性に検討し明らかにすることができる。

E. 結論

ベースライン調査による首都圏居住のMSMの検査経験等動向の把握においては、4,000名以上を集客するクラブイベント調査を実施し、1,000件の回答を得た。分析対象となった回答者数は885件であった。回答者の平均年齢は33.1歳であった。

本研究を実施するに先立ち行われた、乾燥ろ紙血を用いたHIVスクリーニング検査についての検討では、当該の検査方法でHIV陽性者50例中49例がろ紙血で陽性と判定され、またHIV陰性者50例中50例がろ紙血で陰性と判定された。本法の感度は0.98、特異度は1であった。

研究ホームページ「HIVcheck.jp」の構築では、検査結果告知システムの再構築・検討、確認検査を予約できる医療機関の追加、検査結果ページの英語併記表示、ふれいす東京が相談実施する「ポジティブライン」等の情報への結果ページからの情報アクセス改善、「よくある質問集」ページの「あんしんHIVcheckについて」および「HIV感染症について」の内容の記述内容の改訂・更新などを行った。

ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした広報では、誘導先をウェブサイト「HIVcheck.jp」と設定し、新宿二丁目のゲイバー等へのアウトリーチ、ゲイ向けウェブアプリを活用したバナー広告展開、ゲイ雑誌での前 HIVcheck の結果報告と新たな取り組みの紹介記事の掲載などを実施した。「HIVcheck.jp」へのアクセス数は、2018年2月1日から3月31日までに4,656セッションだった。

2018年2月26日に開始したHIVcheckの配布は、3月26日までに毎週月曜日に実施し、合計5回実施した。配布スタッフは5,6名で担当し、専門相談員も同会場に設置した。合計97件の検査キットを配布し、そのうち12名が専門相談員の相談につながった。

F. 研究発表

学会発表

- 1) 木南拓也, 本間隆之, 岩橋恒太, 荒木順子, 佐久間久弘, 大島 岳, 金子典代, 市川誠一 コミュニティセンター akta を基点とするアウトリーチ活動の効果評価 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26
- 2) 荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島 岳, 太田 貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山 賢, 金城 健, 本間隆之, 市川誠一 akta で展開したセーフターセックスキャンペーンとコミュニティベースド調査による効果評価 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26
- 3) 岩橋恒太, 生島 嗣, 藤田彩子, 市川誠一, 白阪琢磨 MSM を対象とした献血に関する情報伝達方法および意識調査 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26
- 4) 本間隆之, 木南拓也, 岩橋恒太, 柴田 恵, 荒木順子, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島 岳, 市川 誠 一 Community-Based

Organization によるアウトリーチ活動のプログラム評価—ロジックモデルを用いたプロセス評価— 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26

- 5) 岩橋恒太, 本間隆之, 堅多敦子, 貞升健志, 長島真美, 清古愛弓, 生島 嗣, 岳中美江, 市川誠一, 今村顕史 東京東部地域におけるMSM向けHIV検査・相談会「快速あんしん検査上野駅」の啓発の構成 ワークショップ3検査・相談体制 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26
- 6) 本間隆之, 岩橋恒太, 堅多敦子, 貞升健志, 長島真美, 清古愛弓, 生島 嗣, 市川誠一, 今村顕史 HIV検査相談会「快速あんしん検査上野駅」の実施 ワークショップ3検査・相談体制 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26
- 7) 高野 操, 岩橋恒太, 荒木順子, 木南拓也, 佐久間久弘, 生島 嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 中山保世, 小日向弘雄, 友成喜代美, 土屋亮人, 杉野祐子, 小形幹子, 上村 悠, 柳川泰昭, 水島大輔, 青木孝弘, 市川誠一, 菊池 嘉 MSM を対象とした自己穿刺血によるHIV検査—HIV Check 受検者の有病率 ワークショップ3検査・相談体制 第31回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29.11.24-26.

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
無し
2. 実用新案登録
無し
3. その他
無し

(資料 1) HIVcheck ベースライン調査 年齢別集計表

	20歳代(n=312)		30歳代(n=381)		40歳以上(n=192)		合計(n=885)	
	n	列の N %	n	列の N %	n	列の N %	n	列の N %
年齢 (3分割)								
20歳代	312	(100.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	312	(35.3%)
30歳代	0	(0.0%)	381	(100.0%)	0	(0.0%)	381	(43.1%)
40歳以上	0	(0.0%)	0	(0.0%)	192	(100.0%)	192	(21.7%)
合計	312	(100.0%)	381	(100.0%)	192	(100.0%)	885	(100.0%)
Q4.居住地								
東京	170	(54.5%)	242	(63.5%)	130	(67.7%)	542	(61.2%)
神奈川県	41	(13.1%)	28	(7.3%)	22	(11.5%)	91	(10.3%)
埼玉県	17	(5.4%)	22	(5.8%)	11	(5.7%)	50	(5.6%)
千葉県	23	(7.4%)	28	(7.3%)	8	(4.2%)	59	(6.7%)
その他	61	(19.6%)	60	(15.7%)	21	(10.9%)	142	(16.0%)
無回答	0	(0.0%)	1	(0.3%)	0	(0.0%)	1	(0.1%)
Q5.国籍								
日本	279	(89.4%)	361	(94.8%)	185	(96.4%)	825	(93.2%)
その他	32	10.3%	20	5.2%	6	3.1%	58	6.6%
無回答	1	(0.3%)	0	(0.0%)	1	(0.5%)	2	(0.2%)
Q6.最終学歴								
中学・高等学校卒、在学中	50	(16.0%)	50	(13.1%)	23	(12.0%)	123	(13.9%)
専門・短大・高専卒、在学中	58	(18.6%)	61	(16.0%)	23	(12.0%)	142	(16.0%)
大学卒業、在学中	159	(51.0%)	205	(53.8%)	118	(61.5%)	482	(54.5%)
大学院修了、在学中	44	(14.1%)	64	(16.8%)	28	(14.6%)	136	(15.4%)
無回答	1	(0.3%)	1	(0.3%)	0	(0.0%)	2	(0.2%)
Q7.現在の職業								
正規雇用	213	(68.3%)	315	(82.7%)	137	(71.4%)	665	(75.1%)
非正規雇用	33	(10.6%)	32	(8.4%)	18	(9.4%)	83	(9.4%)
自由業・自営業・経営	16	(5.1%)	26	(6.8%)	30	(15.6%)	72	(8.1%)
学生	39	(12.5%)	3	(0.8%)	0	(0.0%)	42	(4.7%)
働いていない	5	(1.6%)	4	(1.0%)	4	(2.1%)	13	(1.5%)
その他	6	(1.9%)	1	(0.3%)	1	(0.5%)	8	(0.9%)
無回答	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(1.0%)	2	(0.2%)
Q8.年収								
200万未満	58	(18.6%)	20	(5.2%)	4	(2.1%)	82	(9.3%)
200~400万未満	116	(37.2%)	72	(18.9%)	34	(17.7%)	222	(25.1%)
400~600万未満	83	(26.6%)	142	(37.3%)	52	(27.1%)	277	(31.3%)
600~800万未満	27	(8.7%)	77	(20.2%)	38	(19.8%)	142	(16.0%)
800万円以上	13	(4.2%)	52	(13.6%)	51	(26.6%)	116	(13.1%)
わからない	15	(4.8%)	16	(4.2%)	10	(5.2%)	41	(4.6%)
無回答	0	(0.0%)	2	(0.5%)	3	(1.6%)	5	(0.6%)
Q9_1.HIV検査は日本全国の保健所で無料匿名で受けられる								
正しい	261	(83.7%)	337	(88.5%)	179	(93.2%)	777	(87.8%)
正しくない	15	(4.8%)	15	(3.9%)	5	(2.6%)	35	(4.0%)
わからない	35	(11.2%)	29	(7.6%)	8	(4.2%)	72	(8.1%)
無回答	1	(0.3%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(0.1%)
Q9_2.HIVに感染していない人が、抗HIV薬を内服して、HIVの感染リスクを減らすPrEPという方法がある								
正しい	175	(56.1%)	223	(58.5%)	123	(64.1%)	521	(58.9%)
正しくない	20	(6.4%)	12	(3.1%)	8	(4.2%)	40	(4.5%)
わからない	114	(36.5%)	142	(37.3%)	58	(30.2%)	314	(35.5%)
無回答	3	(1.0%)	4	(1.0%)	3	(1.6%)	10	(1.1%)
Q9_3.HIVに感染していても、抗HIV薬によって血液中のウイルスが検出できないレベルになっている人は、セックスパートナーにHIVを感染させることはほぼない								
正しい	147	(47.1%)	176	(46.2%)	97	(50.5%)	420	(47.5%)
正しくない	72	(23.1%)	99	(26.0%)	45	(23.4%)	216	(24.4%)
わからない	89	(28.5%)	100	(26.2%)	45	(23.4%)	234	(26.4%)
無回答	4	(1.3%)	6	(1.6%)	5	(2.6%)	15	(1.7%)

	20歳代(n=312)		30歳代(n=381)		40歳以上(n=192)		合計(n=885)	
	n	列の N %	n	列の N %	n	列の N %	n	列の N %
Q12.もし自分がHIV陽性になったら「周りの人はこれまで通りに接してくれなくなる」とおもいますか								
そう思う	127	(40.7%)	155	(40.7%)	71	(37.0%)	353	(39.9%)
そう思わない	86	(27.6%)	106	(27.8%)	49	(25.5%)	241	(27.2%)
わからない	98	(31.4%)	120	(31.5%)	72	(37.5%)	290	(32.8%)
無回答	1	(0.3%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(0.1%)
Q13.今は、HIV感染症に関する経済的な支援制度があるので、自分がHIVになっても、そう心配ないと思いますか。								
そう思う	93	(29.8%)	106	(27.8%)	57	(29.7%)	256	(28.9%)
そう思わない	128	(41.0%)	177	(46.5%)	81	(42.2%)	386	(43.6%)
わからない	91	(29.2%)	96	(25.2%)	53	(27.6%)	240	(27.1%)
無回答	0	(0.0%)	2	(0.5%)	1	(0.5%)	3	(0.3%)
Q14.今は、HIVを抑える治療法があるので、自分がHIV陽性となっても、そう心配はないと思いますか。								
そう思う	80	(25.6%)	96	(25.2%)	59	(30.7%)	235	(26.6%)
そう思わない	147	(47.1%)	193	(50.7%)	79	(41.1%)	419	(47.3%)
わからない	84	(26.9%)	90	(23.6%)	54	(28.1%)	228	(25.8%)
無回答	1	(0.3%)	2	(0.5%)	0	(0.0%)	3	(0.3%)
Q15.自分のセックスやセクシュアリティに関する困りごとを相談できる人の人数								
いない	58	(18.6%)	58	(15.2%)	27	(14.1%)	143	(16.2%)
1人	40	(12.8%)	55	(14.4%)	27	(14.1%)	122	(13.8%)
2~5人	142	(45.5%)	192	(50.4%)	107	(55.7%)	441	(49.8%)
6人以上	70	(22.4%)	76	(19.9%)	31	(16.1%)	177	(20.0%)
無回答	2	(0.6%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(0.2%)
Q16.自分のセクシュアリティについて、カミングアウトした人の人数								
いない	87	(27.9%)	112	(29.4%)	62	(32.3%)	261	(29.5%)
1人	39	(12.5%)	43	(11.3%)	21	(10.9%)	103	(11.6%)
2~5人	97	(31.1%)	102	(26.8%)	55	(28.6%)	254	(28.7%)
6人以上	87	(27.9%)	121	(31.8%)	53	(27.6%)	261	(29.5%)
無回答	2	(0.6%)	3	(0.8%)	1	(0.5%)	6	(0.7%)
Q18.過去6カ月間：ゲイ向けの出会いアプリで出会った男性との性交								
ない	118	(37.8%)	163	(42.8%)	88	(45.8%)	369	(41.7%)
ある	193	(61.9%)	215	(56.4%)	104	(54.2%)	512	(57.9%)
無回答	1	(0.3%)	3	(0.8%)	0	(0.0%)	4	(0.5%)
Q18.人数								
0人	5	(1.6%)	6	(1.6%)	1	(0.5%)	12	(1.4%)
1人	19	(6.1%)	21	(5.5%)	16	(8.3%)	56	(6.3%)
2から4人	39	(12.5%)	54	(14.2%)	31	(16.1%)	124	(14.0%)
5から9人	45	(14.4%)	36	(9.4%)	18	(9.4%)	99	(11.2%)
10から19人	46	(14.7%)	56	(14.7%)	21	(10.9%)	123	(13.9%)
20人以上	34	(10.9%)	36	(9.4%)	15	(7.8%)	85	(9.6%)
無回答	124	(39.7%)	172	(45.1%)	90	(46.9%)	386	(43.6%)
Q19.過去6カ月間：有料ハッテン場で出会った男性との性交								
ない	199	(63.8%)	230	(60.4%)	100	(52.1%)	529	(59.8%)
ある	109	(34.9%)	146	(38.3%)	91	(47.4%)	346	(39.1%)
無回答	4	(1.3%)	5	(1.3%)	1	(0.5%)	10	(1.1%)
Q19.人数								
0人	14	(4.5%)	17	(4.5%)	3	(1.6%)	34	(3.8%)
1人	8	(2.6%)	10	(2.6%)	11	(5.7%)	29	(3.3%)
2から4人	30	(9.6%)	41	(10.8%)	29	(15.1%)	100	(11.3%)
5から9人	24	(7.7%)	24	(6.3%)	12	(6.3%)	60	(6.8%)
10から19人	25	(8.0%)	41	(10.8%)	15	(7.8%)	81	(9.2%)
20人以上	15	(4.8%)	23	(6.0%)	18	(9.4%)	56	(6.3%)
無回答	196	(62.8%)	225	(59.1%)	104	(54.2%)	525	(59.3%)

	20歳代(n=312)		30歳代(n=381)		40歳以上(n=192)		合計(n=885)	
	n	列の N %	n	列の N %	n	列の N %	n	列の N %
Q20. 金銭を介した男性とのセックス(過去6か月間)								
お金のやり取りはなかった	240	(76.9%)	315	(82.7%)	157	(81.8%)	712	(80.5%)
お金を払ってセックスした	12	(3.8%)	16	(4.2%)	12	(6.3%)	40	(4.5%)
お金をもらってセックスした	29	(9.3%)	11	(2.9%)	2	(1.0%)	42	(4.7%)
払った貰った両方あった	26	(8.3%)	32	(8.4%)	15	(7.8%)	73	(8.2%)
無回答	5	(1.6%)	7	(1.8%)	6	(3.1%)	18	(2.0%)
Q21. セックス時の使用薬物(過去6か月間)								
ラッシュ	47	(15.4%)	54	(14.3%)	21	(11.2%)	122	(14.0%)
ぼっき薬・ED薬	24	(7.9%)	40	(10.6%)	36	(19.1%)	100	(11.5%)
5-MeO-DIPT	0	(0.0%)	1	(0.3%)	0	(0.0%)	1	(0.1%)
MDMA	4	(1.3%)	7	(1.9%)	6	(3.2%)	17	(2.0%)
大麻	3	(1.0%)	4	(1.1%)	1	(0.5%)	8	(0.9%)
覚せい剤	2	(0.7%)	5	(1.3%)	0	(0.0%)	7	(0.8%)
脱法ドラッグ	2	(0.7%)	8	(2.1%)	1	(0.5%)	11	(1.3%)
いずれもない	233	(76.4%)	297	(78.8%)	131	(69.7%)	661	(76.0%)
Q22. 過去6か月間：PrEPという方法をとった								
ない	283	(90.7%)	348	(91.3%)	180	(93.8%)	811	(91.6%)
ある	26	(8.3%)	29	(7.6%)	9	(4.7%)	64	(7.2%)
無回答	3	(1.0%)	4	(1.0%)	3	(1.6%)	10	(1.1%)
Q23. 過去6か月間：男性とのアナルセックス								
しなかった	23	(7.4%)	51	(13.4%)	19	(9.9%)	93	(10.5%)
した	287	(92.0%)	326	(85.6%)	173	(90.1%)	786	(88.8%)
無回答	2	(0.6%)	4	(1.0%)	0	(0.0%)	6	(0.7%)
Q24. 過去6か月間：タチ時のコンドーム使用								
必ず使った	123	(42.9%)	142	(43.6%)	52	(30.1%)	317	(40.3%)
使うこと多かった	61	(21.3%)	51	(15.6%)	23	(13.3%)	135	(17.2%)
五分五分	19	(6.6%)	23	(7.1%)	18	(10.4%)	60	(7.6%)
使わないほうが多かった	13	(4.5%)	12	(3.7%)	8	(4.6%)	33	(4.2%)
全く使わなかった	15	(5.2%)	15	(4.6%)	9	(5.2%)	39	(5.0%)
タチはしなかった	53	(18.5%)	81	(24.8%)	59	(34.1%)	193	(24.6%)
無回答	3	(1.0%)	2	(0.6%)	4	(2.3%)	9	(1.1%)
Q24. 過去6か月間：タチ時のコンドーム使用(再掲)								
必ず使った	123	(52.6%)	142	(58.0%)	52	(45.6%)	317	(53.5%)
使うこと多かった	61	(26.1%)	51	(20.8%)	23	(20.2%)	135	(22.8%)
五分五分	19	(8.1%)	23	(9.4%)	18	(15.8%)	60	(10.1%)
使わないほうが多かった	13	(5.6%)	12	(4.9%)	8	(7.0%)	33	(5.6%)
全く使わなかった	15	(6.4%)	15	(6.1%)	9	(7.9%)	39	(6.6%)
無回答	3	(1.3%)	2	(0.8%)	4	(3.5%)	9	(1.5%)
Q25. 過去6か月間：ウケ時のコンドーム使用								
必ず使った	113	(39.4%)	152	(46.6%)	70	(40.5%)	335	(42.6%)
使うこと多かった	51	(17.8%)	59	(18.1%)	28	(16.2%)	138	(17.6%)
五分五分	29	(10.1%)	26	(8.0%)	21	(12.1%)	76	(9.7%)
使わないほうが多かった	12	(4.2%)	11	(3.4%)	13	(7.5%)	36	(4.6%)
全く使わなかった	15	(5.2%)	18	(5.5%)	8	(4.6%)	41	(5.2%)
ウケはしなかった	63	(22.0%)	57	(17.5%)	30	(17.3%)	150	(19.1%)
無回答	4	(1.4%)	3	(0.9%)	3	(1.7%)	10	(1.3%)
Q25. 過去6か月間：ウケ時のコンドーム使用(再掲)								
必ず使った	113	(50.4%)	152	(56.5%)	70	(49.0%)	335	(52.7%)
使うこと多かった	51	(22.8%)	59	(21.9%)	28	(19.6%)	138	(21.7%)
五分五分	29	(12.9%)	26	(9.7%)	21	(14.7%)	76	(11.9%)
使わないほうが多かった	12	(5.4%)	11	(4.1%)	13	(9.1%)	36	(5.7%)
全く使わなかった	15	(6.7%)	18	(6.7%)	8	(5.6%)	41	(6.4%)
無回答	4	(1.8%)	3	(1.1%)	3	(2.1%)	10	(1.6%)

	20歳代(n=312)		30歳代(n=381)		40歳以上(n=192)		合計(n=885)	
	n	列の N %	n	列の N %	n	列の N %	n	列の N %
Q26.一番最近の男性とのアナルセックスでのコンドーム使用状況								
使った	212	(67.9%)	242	(63.5%)	122	(63.5%)	576	(65.1%)
使わなかった	71	(22.8%)	80	(21.0%)	49	(25.5%)	200	(22.6%)
無回答	29	(9.3%)	59	(15.5%)	21	(10.9%)	109	(12.3%)
Q27.アナルセックス相手の数(過去6か月間)								
0人	34	(10.9%)	39	(10.2%)	21	(10.9%)	94	(10.6%)
1人	52	(16.7%)	71	(18.6%)	43	(22.4%)	166	(18.8%)
2から4人	57	(18.3%)	70	(18.4%)	33	(17.2%)	160	(18.1%)
5から9人	42	(13.5%)	40	(10.5%)	20	(10.4%)	102	(11.5%)
10から19人	48	(15.4%)	55	(14.4%)	27	(14.1%)	130	(14.7%)
20人以上	35	(11.2%)	36	(9.4%)	23	(12.0%)	94	(10.6%)
無回答	19	(6.1%)	15	(3.9%)	6	(3.1%)	40	(4.5%)
非該当	25	(8.0%)	55	(14.4%)	19	(9.9%)	99	(11.2%)
Q28.旅行先での男性とのアナル(過去6か月間)								
旅行や出張をしていない	117	(37.5%)	121	(31.8%)	59	(30.7%)	297	(33.6%)
日本国内である	55	(17.6%)	53	(13.9%)	25	(13.0%)	133	(15.0%)
海外である	13	(4.2%)	19	(5.0%)	9	(4.7%)	41	(4.6%)
日本国内でも海外でもある	6	(1.9%)	10	(2.6%)	16	(8.3%)	32	(3.6%)
コンドームせずにアナルしていない	96	(30.8%)	123	(32.3%)	64	(33.3%)	283	(32.0%)
非該当	25	(8.0%)	55	(14.4%)	19	(9.9%)	99	(11.2%)
Q29.これまでにHIV検査を受けたいと思ったことがありますか								
ない	65	(20.8%)	65	(17.1%)	24	(12.5%)	154	(17.4%)
ある	242	(77.6%)	312	(81.9%)	166	(86.5%)	720	(81.4%)
無回答	5	(1.6%)	4	(1.0%)	2	(1.0%)	11	(1.2%)
Q30.これまでにHIV検査を受けたことがありますか								
ない	55	(17.6%)	55	(14.4%)	22	(11.5%)	132	(14.9%)
ある	254	(81.4%)	322	(84.5%)	169	(88.0%)	745	(84.2%)
無回答	3	(1.0%)	4	(1.0%)	1	(0.5%)	8	(0.9%)
Q32.最近のHIV検査場所								
保健所	141	(58.5%)	193	(60.9%)	91	(54.5%)	425	(58.6%)
病院,診療所	42	(17.4%)	63	(19.9%)	38	(22.8%)	143	(19.7%)
南新宿検査・相談室	24	(10.0%)	32	(10.1%)	28	(16.8%)	84	(11.6%)
HIVcheck	6	(2.5%)	8	(2.5%)	3	(1.8%)	17	(2.3%)
郵送検査(HIVcheck以外)	11	(4.6%)	4	(1.3%)	1	(0.6%)	16	(2.2%)
イベント検査	11	(4.6%)	14	(4.4%)	5	(3.0%)	30	(4.1%)
その他	9	(3.7%)	6	(1.9%)	2	(1.2%)	17	(2.3%)
Q33.一番最近受けたHIV検査：検査結果								
結果を聞いた	225	(72.1%)	309	(81.1%)	160	(83.3%)	694	(78.4%)
結果を聞かなかった	16	(5.1%)	6	(1.6%)	5	(2.6%)	27	(3.1%)
無回答	13	(4.2%)	7	(1.8%)	4	(2.1%)	24	(2.7%)
非該当	58	(18.6%)	59	(15.5%)	23	(12.0%)	140	(15.8%)
Q34.HIV検査を定期的に受けているか								
6か月またはそれより短いペースで受けている	90	(28.8%)	81	(21.3%)	42	(21.9%)	213	(24.1%)
おおよそ1年に1度のペースで受けている	58	(18.6%)	95	(24.9%)	40	(20.8%)	193	(21.8%)
特にペースは決めていない	94	(30.1%)	142	(37.3%)	84	(43.8%)	320	(36.2%)
無回答	12	(3.8%)	4	(1.0%)	3	(1.6%)	19	(2.1%)
非該当	58	(18.6%)	59	(15.5%)	23	(12.0%)	140	(15.8%)

	20歳代(n=312)		30歳代(n=381)		40歳以上(n=192)		合計(n=885)	
	n	列の N %	n	列の N %	n	列の N %	n	列の N %
Q35.自分の都合がつかず、保健所のHIV検査実施時間に検査を受けられなかったことが過去1年であるか								
ある	122	(39.1%)	123	(32.3%)	59	(30.7%)	304	(34.4%)
ない	185	(59.3%)	250	(65.6%)	130	(67.7%)	565	(63.8%)
無回答	5	(1.6%)	8	(2.1%)	3	(1.6%)	16	(1.8%)
Q36.保健所のHIV検査で、保健所側の都合で予約を取れなかったり、検査を受けられなかったことが過去1年間にあるか								
ある	90	(28.8%)	89	(23.4%)	38	(19.8%)	217	(24.5%)
ない	216	(69.2%)	280	(73.5%)	150	(78.1%)	646	(73.0%)
無回答	6	(1.9%)	12	(3.1%)	4	(2.1%)	22	(2.5%)
Q37.コミュニティセンターaktaを知っていますか								
aktaに行ったことがある	90	(28.8%)	116	(30.4%)	63	(32.8%)	269	(30.4%)
aktaを知っているが、行ったことはない	77	(24.7%)	118	(31.0%)	67	(34.9%)	262	(29.6%)
知らない	139	(44.6%)	144	(37.8%)	59	(30.7%)	342	(38.6%)
無回答	6	(1.9%)	3	(0.8%)	3	(1.6%)	12	(1.4%)
Q38.aktaで配布したHIV検査キット、HIVcheck.JPを知っていますか								
利用したことがある	75	(24.0%)	59	(15.5%)	27	(14.1%)	161	(18.2%)
知っているが、利用したことはない	62	(19.9%)	89	(23.4%)	54	(28.1%)	205	(23.2%)
知らない	169	(54.2%)	228	(59.8%)	109	(56.8%)	506	(57.2%)
無回答	6	(1.9%)	5	(1.3%)	2	(1.0%)	13	(1.5%)
Q39.aktaで配布したHIV検査キット、HIVcheck.JPを定期的に利用したいと思いますか								
利用したい	214	(68.6%)	282	(74.0%)	141	(73.4%)	637	(72.0%)
利用したくない	91	(29.2%)	93	(24.4%)	47	(24.5%)	231	(26.1%)
無回答	7	(2.2%)	6	(1.6%)	4	(2.1%)	17	(1.9%)
Q40.ウェブサイト「HIVマップ」を知っていますか								
ウェブサイトを見たことがある	105	(33.7%)	131	(34.4%)	68	(35.4%)	304	(34.4%)
知っているが、ウェブサイトを見ない	44	(14.1%)	46	(12.1%)	33	(17.2%)	123	(13.9%)
知らない	157	(50.3%)	201	(52.8%)	90	(46.9%)	448	(50.6%)
無回答	6	(1.9%)	3	(0.8%)	1	(0.5%)	10	(1.1%)
Q41.「東京都南新宿検査・相談室」を知っていますか								
利用したことがある	73	(23.4%)	122	(32.0%)	70	(36.5%)	265	(29.9%)
知っているが、行ったことはない	60	(19.2%)	71	(18.6%)	52	(27.1%)	183	(20.7%)
知らない	174	(55.8%)	185	(48.6%)	69	(35.9%)	428	(48.4%)
無回答	5	(1.6%)	3	(0.8%)	1	(0.5%)	9	(1.0%)
Q44.自分が今HIV陽性である可能性の程度								
高いと思う	29	(9.3%)	33	(8.7%)	16	(8.3%)	78	(8.8%)
五分五分くらいだと思う	20	(6.4%)	24	(6.3%)	18	(9.4%)	62	(7.0%)
低いと思う	163	(52.2%)	216	(56.7%)	121	(63.0%)	500	(56.5%)
わからない	76	(24.4%)	90	(23.6%)	30	(15.6%)	196	(22.1%)
すでにHIV陽性の診断を受けている	18	(5.8%)	11	(2.9%)	5	(2.6%)	34	(3.8%)
無回答	6	(1.9%)	7	(1.8%)	2	(1.0%)	15	(1.7%)
Q45.友人・知人等、身近な人でHIV陽性者を知っていますか								
知っている	118	(37.8%)	187	(49.1%)	125	(65.1%)	430	(48.6%)
知らない	124	(39.7%)	131	(34.4%)	53	(27.6%)	308	(34.8%)
わからない	66	(21.2%)	54	(14.2%)	13	(6.8%)	133	(15.0%)
無回答	4	(1.3%)	9	(2.4%)	1	(0.5%)	14	(1.6%)